

教育プログラムの概要及び採教育択理由

機 関 名	東北大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	実践指向型教育専門職の養成プログラム		
主たる研究科・専攻名	教育学研究科総合教育科学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者)水原 克敏		

[教育プログラムの概要]

本プログラムは、学校教育の質的改善・高度化に貢献する教育実践力を備えた専門人材を組織的に養成するものである。様々な課題が山積する今日の学校教育、とりわけ高校教育において求められている教育者の実践的な資質はカリキュラム設計能力とその教育成果をミクロあるいはマクロに測定する教育診断能力との二つである。生徒の学力や興味・関心の差異が特に著しい高校教育においては、各教員が生徒のニーズに適応したカリキュラムを自ら設計して授業・指導を行い、その成果・効果を測定・評価して学校改善に役立てることが焦眉の急となっているからである。つまり多様化する高校教育の中で教育実践のサイクル(Plan-Do-Check & Act)を通して自ら教育を高度化していける教育専門人材が、ますます求められてきている。かかる資質を有する人材養成を目的として、本教育学研究科においては平成20年4月に「教育設計評価専攻」を新設する。この専攻を中心として、教育学研究科及び東北大学全体の支援を受け、理論と実践とを融合した教育研究プログラムを展開し、高度職業人と研究者の養成を行う。

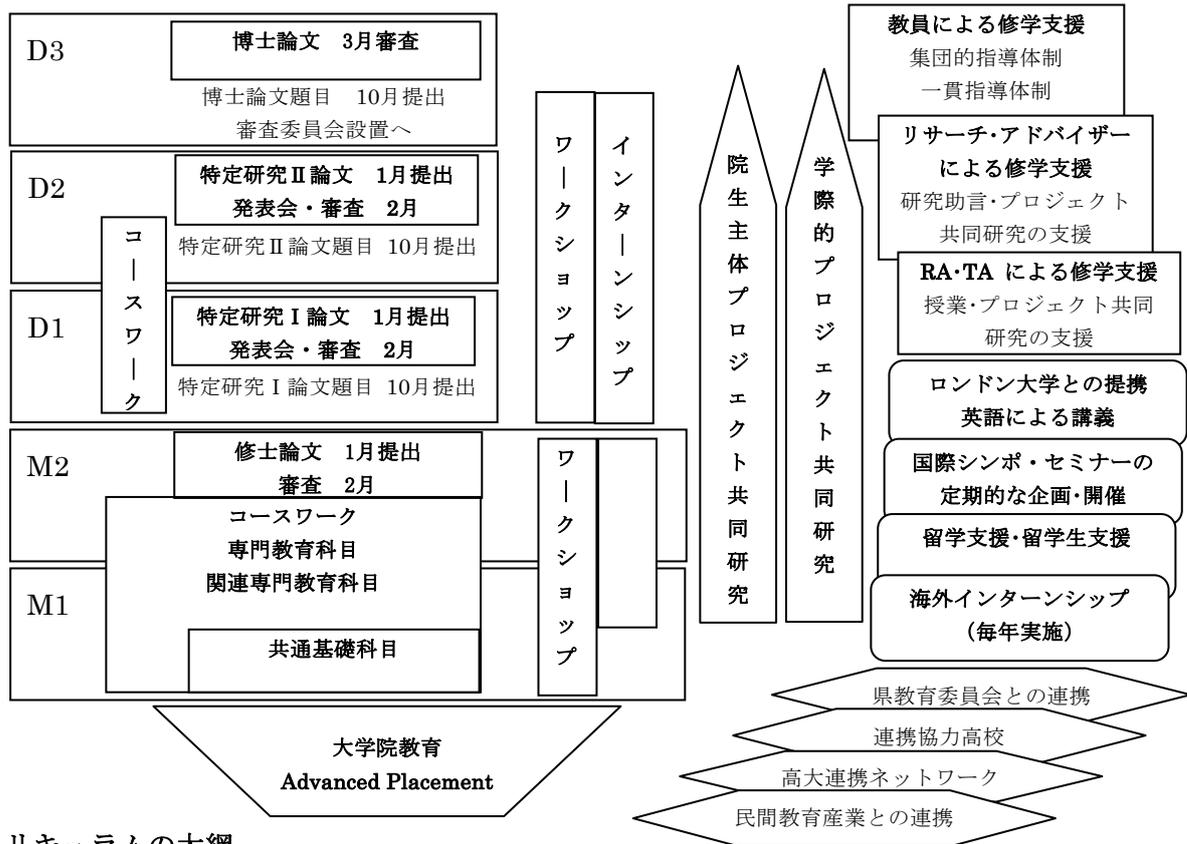
本プログラムを実施する上でのインフラ整備状況として以下の3点を挙げることができる。第一に教育学研究科・教育ネットワークセンターによる研究教育支援体制の整備である。本センターは、地域教育支援、研究プロジェクト、国際交流、研究・教育支援の四部門を有し、問題解決型教育研究及びコンサルテーション事業を広く展開してきた。第二に教育学研究科における教育ネットワークの整備である。教育学研究科は過去42年間にわたる東北大学教育指導者講座に加え、昨年7月より新潟を含む東北地区7県教育委員会とともに高校教育懇談会を発足させ、高校教育に対する支援活動を実施している。また平成13年度より学校教育ボランティア事業を展開中である。第三に東北大学は高大連携事業により学内外にネットワークを築いてきた。高校への授業支援(出前授業)、理数科や英語等の教科での支援協力のほか、現職教員受け入れによる高度な専門的知識を備えた高校教員の育成・研修にも貢献しており、その人的ネットワークは東北7県を中心に全国的な拡がりをもつ。

本プログラムにおいては上記のインフラに加え、民間教育産業やNPO等とのネットワークを資源として活用し、学校教育改善・高度化を頂点として地域政策、地域教育・文化、社会的課題にも応えうる多面的かつ重層的な教育研究を構想している。大学院生をこれらの教育研究に参画させ、課題に対して主体的に取り組ませることを通して、豊かな人間力を培い、高校教育を中心として広く教育上の現代的な諸問題に対し高度な専門的知識・技能を体得し、実務的経験に裏打ちされた課題解決能力を有し、また同時に国際的な感覚を持つ人材の育成を目指す。

育成すべき専門的知識・技能は、幅広い教養と総合的な専門知識の上に習得されるカリキュラム設計及び教育測定評価に関わる専門的知識であり、現実的課題解決のための実践的スキルである。これにより学校教育を高度化し、またグローバル化・地方分権化・生涯学習化の時代において多様化する教育的ニーズに応えることができる。このため、(1)教育学研究科のみならず先端研究を行っている各研究科の提供する知識・技能を基盤とし、教育ネットワークセンターの実践的な教育研究の蓄積を踏まえ、カリキュラム設計及び教育測定評価に関わる理論的かつ実践的なプログラムの提供、(2)実践力を有する教育専門人材育成に向けたカリキュラムの再編・開発及び教育研究支援体制の確立(基盤共通科目の新設、知識・技能の体系化と教科書の編纂、コースワークの明確化、ワークショップ、大学院生中心の学際的な共同研究プロジェクト、インターンシップ、TA・RA・リサーチ・アドバイザー制度による修学支援)、(3)種々の国際交流企画(英語による授業の開設、国際シンポジウム、海外インターンシップ、留学支援、留学生支援)(4)若手研究者のキャリアパス形成に対する積極的支援体制(学部教育TA、大学院教育TA、RA、リサーチ・アドバイザーを経て教育職・研究職に至る)により、教育設計評価に関わる専門的知識・技能を有し、問題解決の実践的かつ応用的能力を備え、さらに国際的感覚を持つ新しいタイプの研究者・高度専門職業人を組織的に育成する。

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

○ 5年間(2年間)の履修指導及び研究指導のプロセスの概念図



○ カリキュラムの大綱

- (1) 大学院教育Advanced Placement・・・平成19年度より大学院は秋入試が中心となるため、合格者には大学院教育を前倒し、その単位（4単位まで）を前期課程修了のための単位と認める。
- (2) 共通基礎科目の新設・・・教育学研究の最前線を認識し、同時に現代的なニーズに応えるための新設科目「現代教育科学の最前線」を設置し、前期課程の共通必修科目とする。
- (3) コースワークの明確化及び教材開発・・・コースワークはこれまで以上に明確なものとし、各コースで目指す人材育成目的に応じて積み上げ式のカリキュラムを編成すると同時に、実践的な高度専門職として求められる知識・技能を、調査活動を通して分析・標準化し、教科書を編纂する。
- (4) インターンシップとワークショップ・・・本研究科のネットワークを活用し、ワークショップ及びインターンシップ（教育委員会・学校・施設・民間教育産業・NPO等）を設け、博士課程前期では必修単位とし、博士課程後期においてもTAとして参加させる。ワークショップには宿泊型ワークショップ（教育指導者講座）も設け、専門的技能の習得と同時に人間力育成の一環とする。

○ プロジェクト共同研究

専門的知識・技能を真に体得するためには、実際に問題解決過程を体験することが不可欠である。そこで教育学研究科・教育ネットワークセンターにおいて実施してきた研究科内公募プロジェクト共同研究に加え、院生中心のプロジェクト共同研究を設ける。院生は少なくとも1プロジェクトに参加し、共同研究を企画立案し、問題解決過程に参加しながら個々の研究を深めることになる。

○ 教育及び研究の指導・支援体制

複数教員による一貫した集団指導体制を敷き、学期毎に各学生と面談の上、教育研究の到達目標を決定し、学期末には目標到達度を確認する。博士研究員を中心とするリサーチ・アドバイザー制度（リサーチ・アドバイザーは教育ネットワークセンターに常駐し、必要に応じて大学院生の研究指導助言を行う。またRAとの協働によりプロジェクト型共同研究の企画・マネジメントを行う）を新設し、教員とともに大学院生の研究及び教育を支援する。またTA及びRAを積極的に活用することにより、教員とともに大学院生の教育及び研究の支援を行う。

○ 国際化への対応

ロンドン大学と提携した英語による講義・国際セミナー・国際シンポジウムの定期的な企画開催・本研究科の尾形尚子基金による留学奨励・留学生の積極的支援を行う。

<採択理由>

本プログラムは、実践指向型教育専門職養成プログラムとして、高校教員の授業力アップという人材養成の目的が明確であり、その教育をカリキュラム設計、教育測定評価を軸としてつくろうとする構想はユニークであり、また高校教育懇談会と教育ネットワークセンターを連動させた統合的・系統的なカリキュラムが用意されており、期待できる。ただし、教育プログラムの実現に向けてカリキュラム設計、教育測定評価の具体的な内容をより明確化することや、大学内の他研究科との関係を更に考慮することが望まれる。